

合同視察研修報告

視察先 京都府久御山町、大阪府羽曳野市

日程 平成26年8月25日(月)～27日(水)

参加者 【総務経済】 一戸豊、太田良一、神秀次郎、北谷正則、下山勝明、出町豊

【教育民生】 澁谷光正、小関優、花田正逸、松山明、三浦勉、新谷賢剛

今年度の研修は、総務経済常

任委員会と教育民生常任委員会
が合同で実施し、京都府久御山
町で「幼保小中一貫的教育の推
進について」、大阪府羽曳野市
で「河内ワイン工場」をそれぞ
れ視察および研修してきました
ので、その概要についてご報告
いたします。

(京都府久御山町)

久御山町は、京都府南部、久
世郡に位置する町で京都市、宇
治市、八幡市、城陽市に隣接し
ており、人口は約1万6600
人と豊かな自然と数多くの先進
的な企業があり、主として金属
加工・プラスチック加工、食品
製造などの事業所が多い町であ
ります。

久御山町では、幼・保・小・
中一貫的教育として、0歳から
15歳まで見通した保育・教育を

推進している町です。

久御山町内には、3つの小学
校があり、各小学校それぞれが
保育所、附属幼稚園と連携をと
っており、保育所・幼稚園・小
学校・中学校を一貫的教育校と
し、そのまとまりを久御山学園
と称しています。久御山町を一
つのキャンパスという捉え方
で、「人生を開拓しようとする
子」(自立・展望・挑戦・共生)。
これが久御山学園が掲げる、目
指す子ども像ということです。
取り組み方は、「幼保連携」、
「幼保小連携」、「小1スタート
プログラム」、「小小連携」、「小
中連携」などといった連携で行
っています。これは、「中学校
での学力充実・向上」、「中学3
年生の希望進路の実現」に結び
つき、幼児期からの教育に力を
入れることの必要性であると話
していました。

久御山学園では、そのように

子どもたちを育てていくため
に、「たての接続」、「よこの連携」
といった具合で取り組んでお
り、「たての接続」では、乳幼
児児童生徒は、現在の各校園所
に在籍したままで、各幼保小中
学校が緊密な連携のもとに、0
歳から15歳までの15年間を通し
て、一人一人の子どもの個性や
能力を最大限に伸ばすことで
きるきめ細かな一貫的教育の推
進、「よこの連携」では、各校
園所が家庭・地域と力を合わせ、
子どもたちの育成に関わること
としています(久御山学園連携
図参照)。

学当初の1年生の生活リズムに
配慮した時間と内容を実施し、
45分授業を2つの教科などに分
割して授業を行い、不安や段差
を解消し、円滑に幼児期の教育
と小学校教育の接続を図ってい
ます。また、各小学校運動会へ
の参加、学習発表会に参加など
といったことをやることで、小
学校への憧れや小学校生活の見
通しを持たせることができ、幼
児が学校や教職員に親近感を持
つことができているということ
です。

わが鶴田町でも、これからの

く、45分間持たないので、45分
授業を、「国語と生活」、「算数
と国語」といったように2つの
教科に分割して行うことなどに
より、集中して授業ができるよ
うになってきている」というこ
とでした。

(大阪府羽曳野市「河内ワイン」)

続いて視察をした「河内ワイ
ン」は、大阪府・羽曳野市に位
置している昭和9年の創業の老
舗ワイン企業で、数多くのワイ
ンを生産・販売している大阪を
代表するワイナリーの一つであ
ります。

ワイナリーがある羽曳野市・
柏原市一帯は、明治時代中期よ
りブドウの栽培が盛んで、かつ



△久御山町役場にて研修

久御山学園

めざす子ども像
「人生を開拓しようとする子」
「自立」「展望」「挑戦」「共生」

★地域と久御山町立各校園所が一体となって子どもたちを育てています。

久御山学園「中学3年生希望進路の実現」を目指して
(学力の充実・向上)

たての接続

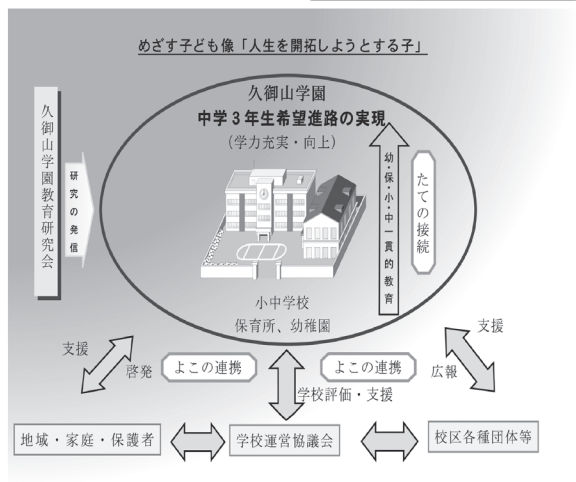
乳幼児児童生徒は現在の各校園所に在籍したまま各幼保小中学校が緊密な連携のもとに、0歳から15歳までの15年間を通して、一人ひとりの子どもの個性や能力を最大限に伸ばすことのできる、きめ細やかな一貫的教育を推進します。

よこの連携

各校園所が家庭・地域と力を合わせ、子どもたちの育成に関わっていきます。

- 地域・家庭・保護者
- 校区各種団体等
- 学校運営協議会

めざす子ども像「人生を開拓しようとする子」



＜久御山学園が取り組む幼・保・小・中一貫的教育とは＞

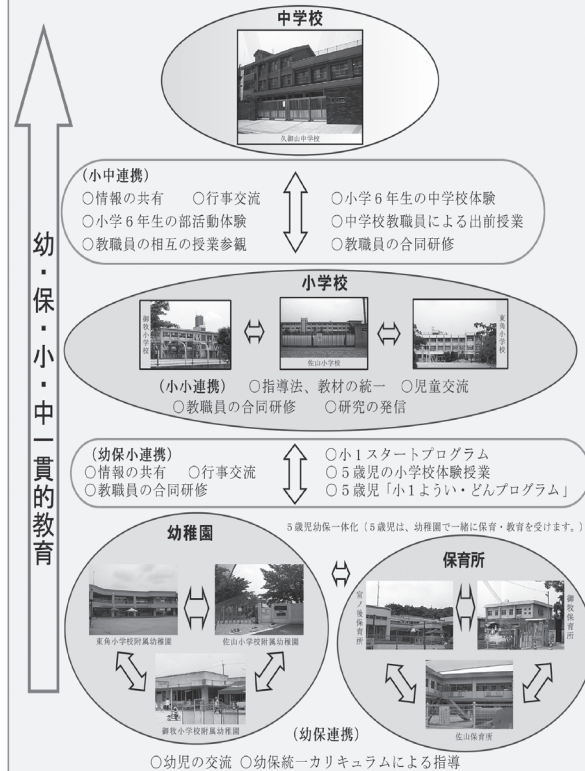
★ 保育所、幼稚園、小学校、中学校の枠にとらわれずに枠組を越えて、各幼保小中学校が接続・連携を意識して0歳から15歳までの15年間を通して、学力充実・向上に向けて教育を推進します。

＜幼・保・小・中一貫的教育の方針＞

- ★ 0歳から15歳を見通した一貫性のある学習指導
- ★ 基本的な生活習慣の確立に向けての一貫性のある生徒指導（子どものやくそく）
- ★ 保育所、幼稚園、小中学校の教職員の計画的・継続的・効果的な交流
- ★ 乳幼児、児童、生徒の計画的・継続的・効果的な交流
- ★ 地域に根ざした特色ある教育活動の充実

久御山学園が進める「幼・保・小・中一貫的教育のイメージ」

中学3年生希望進路の実現



△久御山学園連携図

では食用としての需要がほとんどでした。それを創業者の金洞徳一氏が本格的にワイン製造を始めたのは昭和9年。室戸台風が関西を直撃した年でした。台風により、食用とならなくなったブドウをなんとかしたいという思いから、農業振興策としてワイン造りを提案し、逆境から新たな道を切り開いたということです。

なお、現在でもこの羽曳野市、柏原市地域一帯は、デラウェアや種なしブドウの生産地として全国的に知られています。

このワイナリー視察では、醸造長の高坂拓郎氏より製造工程の説明、ワインセラー（熟成庫）では、ワインはデリケートであり、気温には特に気をつけ、樽発酵は特に難しく温度管理は年間を通じて8〜10度に設定しているなど説明をしていただきました。また、このワイン製造で使うデラウェアやベリーAなどのブドウ作りについても詳しく説明していただきました。

「河内ワイン」には資料館もあり、レトロな農機具や酒樽、創業当時の瓶やラベルなどが展示されており、時代背景を感じながら、河内ワインの歴史を知ることができました。また、販売直営店が併設されており、ワインはもちろん梅酒やブドウジュースなども販売・試飲して

は食用としての需要がほとんどでした。それを創業者の金洞徳一氏が本格的にワイン製造を始めたのは昭和9年。室戸台風が関西を直撃した年でした。台風により、食用とならなくなったブドウをなんとかしたいという思いから、農業振興策としてワイン造りを提案し、逆境から新たな道を切り開いたということです。

なお、現在でもこの羽曳野市、柏原市地域一帯は、デラウェアや種なしブドウの生産地として全国的に知られています。

このワイナリー視察では、醸造長の高坂拓郎氏より製造工程の説明、ワインセラー（熟成庫）では、ワインはデリケートであり、気温には特に気をつけ、樽発酵は特に難しく温度管理は年間を通じて8〜10度に設定しているなど説明をしていただきました。また、このワイン製造で使うデラウェアやベリーAなどのブドウ作りについても詳しく説明していただきました。

「河内ワイン」には資料館もあり、レトロな農機具や酒樽、創業当時の瓶やラベルなどが展示されており、時代背景を感じながら、河内ワインの歴史を知ることができました。また、販売直営店が併設されており、ワインはもちろん梅酒やブドウジュースなども販売・試飲して

いるので、子どもを連れて行ってもブドウの美味しさを味わうことができると思いました。

四代目社長、金銅重行氏は、日本人なのだから和食に合うワイン。「ワインとは、和飲である」と話してくれました。地元のブドウ農家、醸造職人、このワインを愛する方々、この土地と人間に育てられて、支えられて、ここしか作れないものがあるということ、その想いが感じられました。

わが鶴田町も農業を基幹産業としています。地域の農産物で、ここできれいなものを考えていくことへの取り組みの一つとして参考となりました。



△河内ワイン工場にて視察